

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

エントリー学校名：茨城県取手市立藤代南中学校

活動名：藤南スタイルの授業実践
 教科の枠を超えた相互授業参観

解決すべき課題：
 本校は、『生徒の豊かな人間性と主体的に生きる力の育成～自ら学び、成長できる人間づくり～』を目標とし、バランスのよい生徒の育成を目指している。これまでは各教科において、言語活動の充実を図った授業を展開し、学力向上を目指してきた。しかし、教科を中心に行う研修では、学校全体で研修を進めていく意識や協働性が高まりづらい課題があった。そこで、「学習課題の工夫」「対話的学びの工夫」「課題に即した振り返り」を全教科で取り組む「藤南スタイル」を実践するため、相互授業参観を企画・運営することにした。

目標・方針：
 定期的に相互授業参観を実践することで、「藤南スタイル」の実践意識をより高めるとともに、教員同士の協働性が高まり、それにより生徒の「思考力・判断力・表現力」を高めることができるであろう。

活動内容：

- 1 全国学テにおける、思考力・表現力に関する問題分析を実施し、今求められる学力について再認識した。
- 2 「課題の工夫」「対話的学びの工夫」「振り返り」の「藤南スタイル」について全教員でイメージを共有するため、新年度の早い時期に校内研修を実施した。
- 3 道徳教育について校内研修（中央研修の内容の伝達研修）を実施し、「考え議論する道徳」について理解を深めた、授業改善を図った。
- 4 相互授業参観（略案作成）を年度内に一人一回実施した。
- 5 道徳科の授業公開を各学年で年一回実施した。
- 6 県学力診断テストの結果から生徒の思考力・判断力・表現力の高まりを調査し、仮説を検証した。

活動の成果：

- 1 問題分析を行ったことで、『知識・技能を活用する力』を育てる必要があることを再認識できた。
- 2 「藤南スタイル」について、全体研修を行ったことで、イメージの共有化を図ることができた。（資料1）
- 3 道徳科について伝達研修を実施したことで、授業改善に向けてのポイント（質の高い問い・集団づくり・教師のコーディネート）を全教員で共有することができた。（資料2）
- 4 教科の枠を超えた相互授業参観を実施することにより、「藤南スタイル」の授業改善に対する意識を高めることができた。また、相互授業参観シートを作成し、見るポイントを絞ることができた。（資料3）
- 5 道徳科の授業公開を通して、授業改善を図ることができた。（資料4）
- 6 県学力テストの比較から点数の伸びが見られた。（資料5）

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・「藤南スタイル」や「道徳教育」について全教員での校内研修の実施。
- ・教科の枠を超えた相互授業参観の実施。
- ・「相互授業参観シート」の作成。

資料1



資料2

研修を受けた先生の感想（W 教諭）

- ・「考え議論する道徳」のポイント
- ① 教師がしゃべりすぎない授業
- ② 深い学びがある授業

であることを理解することができた。
 特に、「ねらいの焦点化」を意識して授業を進めていきたい。

資料3

相互授業参観シート 記録者 ○ ○ ○ ○
 7月12日 授業者 ○ ○ ○ ○ (教科 英語)

研修テーマ 思考力・判断力・表現力の育成を目指した指導の工夫～「藤南スタイル」の授業の実践を通して～

① 学習課題の工夫（視点）
 ○問題解決型・探究型の課題 ○見通しのもてる課題 ○letなどを活用した課題提示
 ・具体的にイメージしやすい課題設定であった。
 ・プロジェクトにモデル対話が登場されていて、グッドモデルが目視でき、分かりやすかった。

② 話し合い活動の工夫（視点）
 ○共通の目標や役割を掲げる ○考え方やすべりに気づき、結論を導く
 ○自分の考えに意見をもちあう ○双方向の考えを聞いて発想を広げる
 ○双方向の考えを参考に自分や集団としての考えを深める
 ・ペアやグループでの対話を活用して、コミュニケーション能力の向上を図っていた。
 ・全体でのフィードバックでは、集団の前でも謙遜せず自信をもって発表できるスキルを多くの生徒がもっていた。

③ 課題に即した振り返り（視点）
 ○「分かったこと」や「よく分からなかったこと」を自分の言葉で記述する
 ○「もっと知りたいこと・やってみようこと」を自分の言葉で記述する
 ○めあてと振り返りが対になっている
 ・新しい文法について、自分の言葉でまとめながら理解を深めていた。さらにワークなどで確認し定着を図っていた。
 ・対話相手の良い点や自分の課題を整理して書いていた。

④ その他
 ・反復的な活動と即興的な活動があり、様々なパターンを効果的に使って、表現の定着や会話の弾力性を向上させている。

資料4

板書計画及び授業の工夫			指導者	内田 尚樹
10月26日(火)	4校時	3年1組	単元名・題材名	死刑制度を考える（本時は 1/1）
【本時の目標】○法やまじりの意義を理解し、よりよいあり方について考え、規律ある社会の実現に努めようとする心情を育てる。				
法やまじりの意義 死刑制度を考える ①法やまじりの意義を説明することを通して、法やまじりとはどのようなものか、自分の考えをまとめよう。	【板書】 ①よりよい社会を実現するには、死刑制度は必要なのだろうか、必要ないのだろうか。 【必要】 ・凶悪な犯罪をもっと増える。 ・被害を受けた人や家族は許せない。 ・自分の命で償うべきだ。 【必要ない】 ・えん罪があった場合取り返しがつかない ・国家であっても人を殺すことは許されない ・凶悪犯罪でも、更生の可能性はある ※これらの資料は大型テレビに	【授業の流れ】 <授業の流れ> 1 法やまじりの意義を考える。 2 死刑制度の現状について資料をもとに考える。 3 死刑制度の有無について自分の考えをまとめる。 4 死刑制度の有無について全体で意見を共有する。 5 法やまじりと法廷のようなものか、自分の考えをまとめよう。 6 本時の学習を振り返り、まとめをする。		
【藤南スタイルにせまるための授業の手立て】 ○死刑制度に関する世界の国々の状況や日本の世論調査を知らせることで、生徒の興味や関心を高める。 ○問題解決的な学習を取り入れ、生徒が主体的に考え、議論しながら解決方法を考えられるようにする。 ○振り返りの時間をじっくりと確保することで、道徳的価値に対する実践意欲と態度を育てられるようにする。				
【工夫点】 ・問題解決的な学習の場面では、思考ツール「バタフライチャート」を活用し、生徒が多面的・多角的に解決方法を考えられるようにしている。				
【評価・評価方法】 ※法やまじりのよりよいあり方について、自分の考えをまとめ、規律ある社会を実現しようとする思いを深めようとしている。（ワークシートの記述内容）				

資料5

第3学年 県学力診断テスト（県平均との比較 全体）



	国語	社会	数学	理科	英語
■ H30	-1.7	-0.9	-4.0	-0.4	4.5
■ R1	2.7	2.8	2.5	3.0	3.6

第3学年 県学力診断テスト
 （県平均との比較 思考・判断・表現）



	国語 書く力	国語 質問する力	数学 考え方
■ H30	9.3	-2.3	-12.9
■ R1	9.8	9.5	4.2